

なぜアリゾナ ダイヤモンドバックスがこれほど強く、CIA がこれほど弱いのか？

Greatchain
July 14, 2023 へ

その答えはわかっている。この人格者の象徴として尊敬されるガラガラ蛇が、現実に強く、強さの象徴である「モスルの血の池」やクラスター爆弾を画策する米 CIA が、非人間的で、本来の人間からすれば、弱者あるいは不能者であることが、世界に知れ渡ったからである。

RT がこのような Newsweek の記事を紹介している。まずこれを読んでいただきたい：—

ニューズウィークがウクライナにおける CIA の役割を暴露

米中央情報局（CIA）がウクライナの土地で活躍し、キエフ政府がロシアと戦うのを援助するために、密かな供与のネットワークをめぐらせていることを、水曜日、ニューズウィークが報道し、これは米政府内の匿名のソースによることを明かした。

「CIA は、これが始まるずっと前から戦争の中心にいた」と、William Arkin によるこの記事は主張する。CIA 長官 William Burns が 2022 年 1 月にモスクワを訪問したことは有名な事実で、彼は、「侵略」しないようロシアに要請することには失敗したが、クレムリンに対し、アメリカの「ルール」を受け入れさせた——と、少なくとも、アーキンとそのソースは言っている。

察するところ、ジョー・バイデン米大統領によって明言されたこの「ルール」は、ワシントンとキエフは「ロシア自体あるいはロシア国の存続を脅かすような、どんな行動も企てない」と言ったのであろう。その代わり、モスクワは「ウクライナを超えて戦争をエスカレートさせたり、核兵器使用に訴えたりしない」ことを約束させたのであろう。

「こうした約束を強いることは、アメリカへの裏切りだ」と、ある高位の防衛情報官はニューズウィークに対し、匿名を条件に語った。アーキンの話では、彼は「1 ダース以

上の」高官や情報専門家たちと、3 か月もの調査期間をかけて話し合ったという。個人名についての情報は、この記事では一切出てこない。

アーキンのソースでは、CIA は、ウクライナへの援助キャンペーンを、ポーランドを基地として行っていることを認めた。それには gray fleet と呼ばれる、中央及び東ヨーロッパ全土で行われる、兵器や他の物資のチャトル航空輸送が含まれる。CIA 要員たちはまた、「新しい武器や機械の使い方を教えるために、秘密ミッションを帯びてウクライナへ出入りした。」しかし常に注意深く、「ロシア軍と正面からぶつかることを避けた。」

「CIA がウクライナ内部で活動しているのかって？ 確かにそうだ、しかしそれは邪悪とも言えないものだ」と、別の情報高官が言ったが、それはバイデン政府のやり方で、「米国民を被害から守るためと、ロシアには、エスカレートする必要がないと保証するためだ」と、言い繕った。

しかし問題は、ウクライナがバイデンの「ルール」に従っていないらしいことである。ニュースウィークは、キエフの、「ノルドストリーム」パイプライン攻撃、Kerch 橋の爆撃、それにロシアの基地やクレムリンへのドローン攻撃について、非難している。こうした攻撃は、いったい CIA は、「モスクワとの秘密の合意を護る」計画を、ウクライナが知っているのかを、承知しているのかについて疑問を投げかけている。

情報局は今、「ゼレンスキー大統領の考え意図していることと、プーチン大統領の考え意図していることが、同じくらい不確かなものを感じている」と、この記事は言っている。

「CIA が、クリミア大橋への攻撃によって悟ったことは、ゼレンスキーが、彼自身の軍隊を完全に掌握していないか、それとも、ある行動については知りたくないのか、どちらかだということだった」と、匿名希望の軍事情報高官は語った。

一方、ゼレンスキー自身は、アーキンの記事が発表される2日前に、それとは完全に矛盾することを言った。彼は月曜日、CNN に対して、情報局長官の最近のキエフ訪問についてコメントし、「我々は CIA からどんな秘密も与えられていない」と話した。

これと、1 つ前の、ウクライナにおける外国人傭兵の実情と比較しながら、アメリカが戦況をどれくらい把握しているのか考えてみるとよい。CIA の非人間的で、相互の信頼を無視した、自分勝手なチェスは、とうてい戦争を勝利に導けるようなものではないことがわかるだろう。

こういったアメリカの無能さと、「スプートニク日本」のこのプーチン情報を比較してみるのがよい：——

プーチン大統領、反乱5日後にプリゴジン氏と会談—— ペスコフ報道官

先月24日の武装氾濫の5日後に、ロシアのウラジミール・プーチン大統領が、民間軍事会社「ワグネル」のエフゲニー・プリゴジン代表と会談していたことが明らかになった。10日、ロシア大統領府のドミートリ・ペスコフ報道官が発表した。

ペスコフ報道官によると、プーチン大統領は6月29日、プリゴジン氏とクレムリンで会談した。会談は約3時間にわたって行われ、ワグネルの司令官らを含む35人が同席した。

会談でプーチン大統領は、武装氾濫をめぐる一連の動きに自身の評価を下したほか、ワグネル側に就職斡旋に関する案を提示した。一方、ワグネルの司令官らは、自身が「大統領の筋金入りの支持者であり、祖国のためにさらに戦う用意がある」と強調したという。

このほかの詳細については、ペスコフ報道官は言及しなかった。

これだけの文面の中に、どれほど多くの情報が含まれていることか！ まずプーチン氏は、わが国の下種の勘繰りメディアの言うように、この事件でオタオタして権力が危うくなった、などというのはウソである。その逆、つまりこれによって、愛国者の結束を固めたことがわかる。プーチンはもちろん、CIAのような情報局がワグネルの背後に知っている。しかしそれ以上にこれは、信頼によって国家を動かす者と、武力とカネだけで簡単に人は動かせると考える者との違いである。信頼はロシアにとって、愛国心と同義語であり、現アメリカは愛国心の否定の上に成り立っている。この区別をしない、あるいは、できない者たちが、あれこれ言いふらすことをやめよ。

Infowarsのアレックス・ジョーンズが、前著 *The Great Reset* に続いて、新著 *The Great Awakening: Defeating the Globalists and the Next Great Renaissance* (**大覚醒：グローバリストの敗退と来たるべき大ルネッサンス**) という本を書いた。この本のタイトルは、おそらくプーチンがそのまま使いたくなるであろう。プーチンの活動の狙いはそこにある。簡単な短評が書かれている：「アメリカの最も悪意を受けている愛国者が、グローバリストの人間支配の画策の失敗について、うれしいニュースを詳しく語る、強力な新著を刊行中！」

もう一つ、ロシアの従軍ジャーナリストが、武器を取って祖国のために戦う決意をした長文の ET 記事がある：――

「私は生き、戦い、ロシアのために死ぬ用意があった」――作家から兵士に転じた青年が、ウクライナに対して武器を取り、こう語った

<https://www.rt.com/russia/579378-writer-turned-soldier-took-up-arms/>

